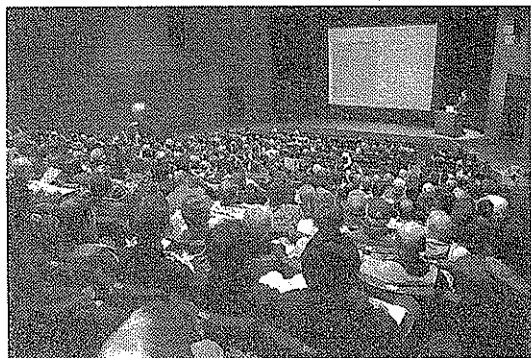


# 津波克服へ最良の方程式を

神奈川県建設業協会（三木 崇雄会長）は10日、神奈川県茅ヶ崎市の茅ヶ崎市民会館で、建設フォーラム第2回「震災・TSUNAMIとTSUNAMIを知らう、茅ヶ崎」を開いた。協会として初めての市民向けフォーラムで、350人を超える大勢の市民ら



## 協会初の市民向けフォーラム

主催者あいさつした同協会建設みらい委員会の山本善一委員長は、沿岸域以外の人も津波に襲われる危険性があるとして「きよこのフォーラムで頭から、目からそれを感じ



山本委員長

## 地域を守る建設業理解し活用を

フォーラムを明日からの生活に役立てるとともに聞いたことを人々に語り継いでほしい」と願った。

講演では、東日本大震災現場からの証言1「ファイナター越しの3・11」を写真家の佐藤慧氏、同証言2「その時建設業者はどう動いたか」を深松氏が話した。続いて茅ヶ崎市民安全部の高木邦喜防

てほしい」と呼び掛けた。その上で東日本大震災で建設業が果たした役割を説明し、「建設業で働く人たちは日夜、皆さんの安全・安心を守るため尽力している。茅ヶ崎にも建設業協会がある。建設業者が近くにいることを理解し、活用してほしい。このフォーラムとして「世界各地の

### 神建協

この中で佐藤氏は、戦場から仕事をしてきた。トラウマになっている社員、ウツになった社員もいるが、仕事を続けている」と地域を守る建設業の使命として取り組んでいることを説明し、建設業に対する正しい理解を求めた。そして最後に「いざまた襲ってくるであろう大震災に素早く対応し、スムーズな復旧復興に立ち向かえるように、次世代の人々に伝えることが、今回日本中、世界中から支援をいただいた、われわれ被災地からの恩返しだと思

被災地で救援作業するため、一番最初に建設業者が「道路啓開」にあたり、その後、ガソリン不足などの課題に対応しながら、「がれき撤去」「建物の解体」などの作業を続けていると述べた。「被災当初は遺体も多く、みんな泣きながら仕事をしてきた。トラウマになっている社員、ウツになった社員もいるが、仕事を続けている」と地域を守る建設業の使命として取り組んでいることを説明し、建設業に対する正しい理解を求めた。そして最後に「いざまた襲ってくるであろう大震災に素早く対応し、スムーズな復旧復興に立ち向かえるように、次世代の人々に伝えることが、今回日本中、世界中から支援をいただいた、われわれ被災地からの恩返しだと思

と述べている」と述べた。